

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	71	実施計画番号	56
事務事業名	とわだ駒街道マラソン大会		
個別事業名		事業開始年度	平成7年度
担当課名	スポーツ青少年課	事務の種類	自治事務
根拠法令等		関連事務事業	
背景や経緯等	当市で掲げている「市民ひとり1スポーツ」の啓発と日本の道100選に選ばれた「駒街道」の全国への発信による当市の知名度アップをねらいとして開催している重要なイベントである。		
事務事業の目的	マラソンを通して、「市民ひとり1スポーツ」の普及振興と健康増進・参加者相互の親睦を深める。また、官庁街通り(通称「駒街道」)を広く紹介し、市民の活性化を図る。		
実施状況	参加者数の推移は、平成19年度987人、20年度1153人、21年度1162人、22年度1196人、23年度1235人と順調に増えている。		

【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	60	60	60
	人件費(千円)	2,160	2,160	2,160
正職員以外	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	60	60	60
臨時職員	人件費(千円)	234	234	234

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	22年度実績	23年度実績	24年度計画
	3,837	3,764	3,892
うち一般財源	1,900	1,900	1,900
うち国県支出金	0	0	0
うち地方債	0	0	0
うちその他	1,937	1,864	1,992

【指標】

活動指標	活動指標名①	参加者数			
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画
		人	1,196	1,235	1,272
	活動指標名②				
成果指標	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度
		人	1,196	1,232	1,272
			1,196	1,235	
			100%	100%	
	成果指標名②				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度

十和田市事務事業評価シート

整理No	71
計画No	56

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 ①ここ数年間は駒マラソン大会への参加者が微増傾向にあり市民から求められている事業である。 ②市民ひとり1スポーツの啓発、及び十和田市の知名度アップの観点から行政が実施することに妥当性がある。		
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2				
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 ③④大会参加のために日頃からの練習が大切であり、大会参加に向け継続的に練習する市民が多く見受けられた。 ⑤参加賞等の内容に検討の余地がある。		
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2				
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1				
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1	4	コスト削減の余地 2 / 6 ⑥⑧経費削減の検討と指定管理者へ委託する等の検討の余地がある。		
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2				
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1				
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	3	受益者負担適正化の余地 1 / 4 ⑩参加記念品や大会参加料金の見直し検討の余地がある。		
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1				
					現在の適性	16 / 20	改善の余地	4 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **16** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **4** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性

有効性を改善して継続

方向性の理由

当市で掲げている「市民ひとり1スポーツ」の啓発と日本の道100選に選ばれた「駒街道」の全国への発信による当市の知名度アップをねらいとして開催している重要なイベントである。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

参加者募集について、ポスター掲示、チラシ配布はもとより、広報誌、雑誌、新聞、及びホームページなどの積極的な活用によって当該イベントの周知徹底を図るほか、参加費用(参加賞など経費を含め)の見直し等による参加し易い環境づくりに努め、市内外から多くの参加者を募る。